

ベルギー連続テロと通貨ポンドの見通しについて

2016年3月28日

<ベルギーにおいて連続テロが発生>

ベルギーの首都ブリュッセルにおいて3月22日(現地、以下同様)、空港や地下鉄駅を狙った連続テロが発生しました。今回のテロ実行犯の一人は2015年11月のフランス・パリ同時テロにも関わったとされており、過激派組織IS(イスラム国)は犯行声明を出しました。ブリュッセルはEU(欧州連合)の行政機関が集中しており、今回のテロがEUを標的にしたとの見方もされています。

<英国のEU離脱の是非を問う国民投票に影響も>

英国では6月23日にEU離脱の是非を問う国民投票の実施が予定されていますが、ベルギー連続テロを受けてEU離脱支持派が国境管理の厳格化を主張するなど、EU離脱の主張が強まる兆しがみられています。一方、キャメロン首相は今回のテロとEU離脱をめぐる議論をこのタイミングで結びつけることは適切ではないとしています。EU離脱問題に関する世論調査の結果はEU残留か離脱かでほぼきつ抗しており、国民投票の行方は不透明な状況が続くとみられます。

<今後の英ポンドの見通し>

足元の英国経済は、雇用環境が改善しており個人消費が堅調さを保っていることなどを背景にGDP(国内総生産)成長率は底固く推移しています。一方、英国がEUを離脱した場合の経済的影響についてはさまざまな試算がなされており、そのインパクトは総じて大きいと結論付けられています。

ベルギー連続テロ発生により英国でのEU離脱支持派が発言力を増し、国民投票の行方への不透明感が強まるとの見方から英ポンドは足元で不安定な値動きとなっています。しかし、EU離脱時の経済的影響の大きさから英国国民が現実的な選択をする形でEU残留が決定されるとの見通しが高まった場合には、現状すでに割安感のある英ポンドは健全な英国経済の状況もあいまって買い戻され、上昇圧力が強まるとみえています。

英ポンドの推移



以上

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>